

2018年2月25日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第467回)

「二上山山麓の道と「^{どんづるぼう}屯鶴峯」を訪ねる (奈良)」



大阪と奈良の境にそびえる二上山 (にじょうざん、ふたかみやま)。
雄岳 (517m) と雌岳 (474m) の間に夕日が沈む様子から、神聖な山として崇められてきました。

今回はこの二上山山麓を歩きます。

近鉄南大阪線「二上山」駅に午前10時集合。

隣には「二上神社口」駅もあり、また近鉄大阪線の「二上」駅もすぐ近くにありますが、間違える事も、遅れる事もなく、17人が参加 (男性9人、女性8人) しました。

奈良と大阪の境には、北から生駒山～信貴山、二上山～葛城山～金剛山と、山並みがそびえています。その間、信貴山と二上山の間だけ切れ目があり、そこを大和川が流れています。その幅4kmほどの切れ目に、西名阪自動車道、国道25号線、府県道、2本の近鉄線、そしてJR関西本線が集中して通り、人とモノが交流しています。

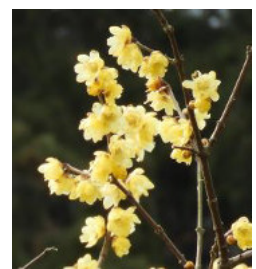
古くは大和川を通じての舟運もありました。

前回歩いた古市古墳群もここから短時間で行く事が出来ます。

ここは、大和と河内の間のゲートウェイなのです。

しばらく山麓の集落を歩きます。

寒さの厳しい冬でしたが、木々は着実に春の準備を進めているようで、そこここに花を観る事が出来ました。



時々薄日もさす中、谷あいの道を

「どんづる峯」に向かいます。

大阪の小学校、中学校は、遠足でこのどんづる峯を訪れる事が多く、会員の中には、数十年前に来たという方も、何人か居られました。



さあ、どんづる峯です。

一面の雪景色かと思ってしまうような不思議な光景です。二上山の火山活動によって降り積もった火山灰が、凝灰岩となり、その後の隆起によって露出し、1500万年の風化・浸食を経て、この様な奇怪な風景になったのだそうです。標高は150mほどです。

「どんづる」には「屯鶴」の字が宛てられています。白とグレーのまだらな景色が、遠望すると「白い鶴が屯（たむろ）しているように見える」と名付けられたというのですが（？）ここで昼食です。隆起した地層が斜めに連なっているので、平らな所はあまりありません。全員写真も何となく、皆さん傾いているように見えますね。



昼食後、麓の道を二上の方に戻ります。
道は大和と河内を結ぶ古くからの道で、622（推古天皇30）年、聖徳太子の亡骸を太子町磯長の御廟に送ったのも、この道とされています。
後に聖徳太子が篤く敬われるようになると、斑鳩の法隆寺と御廟の叡福寺の御廟への参拝者が多く、この道は太子道と呼ばれるようになりました。
道脇の小高い所に磨崖仏がありました。
像の高さ50cmほどのお地藏様です。
1548（天文17）年、玉祐という人が生前供養のために祀ったと銘文にあるそうです。崖の上から、参詣する人たちの安全を見守って来たのでしょうか。



午後は、同じ名前の神社2カ所にお参りしました。



かしぼ あなむし
一つは、香芝市穴虫にある
大坂山口神社。（左写真）

おうさか
もう一つは、香芝市逢坂にある
大坂山口神社です。（右写真）
その間およそ600mです。

平安時代の由緒ある神社2861所を記したリスト「延喜式 神名帳（えんぎしき じんみょうちょう）」に、このあたりの大坂山口神社の名が記載されているのですが、正確な所在地は分かりません。結局、どちらもが延喜式に記載された神社「式内社（しきないしゃ）」という事で、今日まで守り伝えられているのです。

いずれも地域の生活に密着した神社と見受けられました。

「曇りのち午後から雨」という天気予報でしたが、降り出す前に、無事、近鉄大阪線の「二上」駅で解散しました。雨の場合は、当麻寺参拝という腹案もあったようですが、後日の楽しみに残して置く事が出来ました。

* * * *

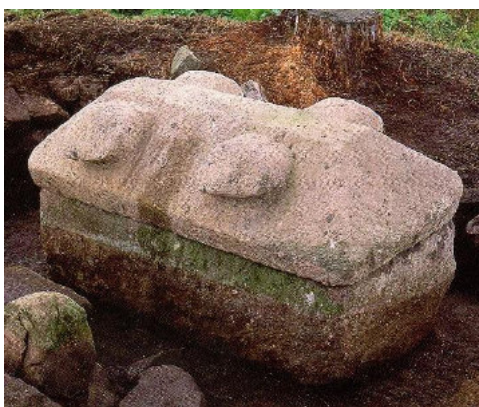
相変わらずの蛇足で失礼します。

蛇足1 銀峯

時々参考にする江戸時代の観光ガイド「名所図会」。
今回の二上山については、あまり詳しい記述はありません。
大和・河内にまたがる男嶽、女嶽の二峯があるというだけです。
ただ「北に小峯あり、銀峯（しろがねみね）という」と書いて
います。位置的にも合致しますし、この「銀峯」が今日の
「どんづる峯」のことかも知れませんね。
とするとなかなか優雅な呼び名と思いますが。



蛇足2 二上山の石



二上山の凝灰岩は柔らかい為、細かい細工には向かないものの、加工しやすく、古墳の石室や石棺にしばしば使われていたようです。
例えば琵琶湖西岸の鴨稻荷山古墳は、金銅製のきらびやかな冠が出土したことなどで良く知られていますが、石棺は二上山の石材であるとされています。
この石の大きさ・重さ、二上山との距離を思い合わせると、ここに葬られた人の勢力がいかに大きなものだったかが偲ばれます。（写真 滋賀県高島市パンフレットより）

蛇足3 威奈大村（いなのおおむら）の骨蔵器

江戸時代半ば 1764年～70年頃に、香芝市穴虫の地で、不思議なものが掘り出されました。（場所は穴虫・大坂山口神社の裏山付近と云われています）
球形で中空、直径はおよそ24cm、上下二つに分かれ、全体に金メッキが施されて、文字が刻まれていました。その後大阪四天王寺に伝えられて来た「金銅威奈大村骨蔵器」です。

この骨蔵器に刻まれた300字を越える追悼文や続日本紀の記事などから、威奈真人大村（いなのみひと おおむら）の経歴や人となりが分かります。飛鳥時代に生まれた貴族で、出世の階段を登り、707（景雲4）年に越後城司として亡くなり、故郷のこの地に葬られます。この球形の中に大村の遺骨が納められていたのです。

日本の歴史で数少ない墓誌として、又精緻な細工の金工品として、国宝に指定されています。国宝展などにもしばしば展示され、ご覧になった方も多いかと思います。

写真は京都国立博物館のホームページで見ることが出来ます。（威奈大村骨蔵器）

二上山山麓の地の歴史の古さを示す一例と思い、蛇足に加えてみました。

* * * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

（事前に予約が必要な場合もあります）

- 今後の予定
- 3月 御坊と道成寺（青春18切符を利用 和歌山）
 - 4月 宇陀松山城跡～大宇陀松山の町並みを訪ねる（奈良）
 - 5月 「茶源郷」和束 緑波の茶畑と新茶の薫り（京都）
 - 6月 大正街歩き、渡船に乗って沖縄の風を感じる（大阪）
 - 7月 光秀ゆかりの福知山城と御霊神社を訪ね、由良川で治水の歴史を学ぶ
（青春18切符を利用 京都）
 - 8月 暑さを避けて 休会
 - 9月 六甲の自然を取り込んだ広大な神戸市立森林植物園を楽しむ（兵庫）
 - 10月 京都トレイル第2回 伏見稻荷から蹴上へ（京都）
 - 11月25・6日 若狭・三方五湖と鯖街道を歩く（1泊2日のツアー）
 - 12月16日 納会（大阪）
 - 1月 エキゾチック！世界宗教寺院めぐり（兵庫）
 - 2月 日野 ひな祭り紀行と町並み散策（滋賀）
 - 3月 華岡青洲の里を訪ねる（和歌山）

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743-20-4159）

一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

生島（おじま）幸弥 記